令和6年度　第１回　原村地域福祉計画推進協議会　会議録

開催日時　　　　：令和7年2月28日（金）　午後1：30～午後15：30

出席者　　　　　：7名

欠席者　　　　　：１名

アドバイザー　　：１名

事務局　　　　　：4名

１　開　　会

事 務 局：定刻となりましたのでこれより令和6度第１回原村地域福祉計画推進協議会を開催いた

します。今回もよろしくお願いいたします。

２　あいさつ

委　員：お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。 急に暖かくなって体がついていかないといった様子で、こんな中ですが、本日もどうぞよろしくお願いします。

３　自己紹介

４　協　　議

（１）令和5年度実績報告及び令和6年度進捗及び令和7年度実施計画について

・「資料１令和5年度実績報告及び令和6年度進捗及び令和7年度実施計画について」「令和5年度実

績報告（主要な施策の成果説明書からの抜粋）」を活用し事務局より説明

＜質疑応答＞

委　　員：この会議のお願いになるが、実績の確認にとどまらず、内容の修正や評価、問題点を拾い上げられる会議にしていきたいと思っている。

事 務 局：この計画は幅が広いので、経過報告といっても胸に落ちないだろう点もあるかと思う。令和６年度地域福祉の充実のために重層的支援体制整備事業というものに重点を置いて動いてきた。既存の事業を活用して地域福祉を充実させていくもので、高齢者・障がい者のみならず、困っている方や世帯を行政や支援者から見つけ出して支援していくというもの。重層的支援体制整備事業では、本人たちの許可を得なくとも、その世帯にある複合的な問題にかかわる関係者が集まり、情報共有をし、支援者会議を開くことができる。これは行政だけではできないので、ボランティアや民生委員の方々の力を借りながら地域力を高めることが大切。そのためにも今後さらにボランティアの活動の場を広げていきたいと思っている。

委　員：ボランティアの活性化について毎年上がってくるが、ボランティアを活性化するために、できたら村の方から何か支援があると嬉しい。例えば、ボランティアセンターみたいな場所があれば、さらに活性化しやすいのかなと。あと、この資料にはねこの足について記載がないので、交通不便者のところにねこの足を追加してもらえれば。

事 務 局：地域福祉計画が策定されたときがだいぶ前で、まだねこの足が正式にできていなかったので抜けている部分があると思う。次回策定するときには入れていかなければならないと思っている。また、社協の方でも子どもに対する支援が重要になってきている。学習支援を行っているが、教育サイドで支援しにくい部分の子どもの支援も行っている。子どもの支援についてかなりウエイトが大きくなってきているので、金銭部分で社協へ支援していただきたいという思いもある。新しい計画では、その部分も含めていかなければならない。

委 員：地域福祉計画の内容を見ると、非常に多岐にわたっていて、これが策定されてから今まで社会情勢はかなり変わってきている。この会議は変わったものをどう受け止めてどう変えていくかの会議なのかなと思っている。それなのに年１回しか開かれていない。その中でこれだけ多岐にわたるものを深めていくのは難しい。予算の関係もあると思うが、内容を詰められるような形が必要。子どものことについてだが、今子どもの人権についてすごく言われるようになった。昔に比べると子育てそのものが変わってきている。今保護者は子育てと家族の生活を守るのに必死。そのため、子どもの居場所づくりがすごく重要になってきている。村全体で協力していく必要がある。そのことについて具体的に話し合える場が増えるとよい。高齢者について、去年自分の住んでいる地区でも独居老人の孤独死があった。民生委員が訪問して話を聞いてくれるだけでありがたいという話を聞く。自分で移動できない方もいるので、相談に来てください、よりも訪問していく方がいいと考える。移動が難しい高齢者に対してどう関わっていくのか考えていく必要がある。

事務局：ボランティアセンターについて、すぐには対応が難しいが、場所づくりという点に関して検討を進めていく。その間にも、行政で支援できることについて研究していく。この協議会について近年は年１回の開催となっている。予算もあるので来年度から増やすことは難しいが、新たな計画からは検証の在り方について検討していく。高齢者の問題については、民生委員には地域を回ってもらって助かっている。重層的支援体制整備事業にも関わってくる点であるので、今後も研究していく。

委 員：R5年度のふれあい訪問事業利用者が１人だが、１人に101回訪問しているのか。

事務局：ふれあい訪問事業の対象になるには一定の条件がある。要介護認定を受けた方は別事業になるため、介護保険で対象外、その他条件でも対象外となった関係で一人になった。1人に101回訪問しているという認識で合っている。介護保険事業や包括支援センターでも訪問しているので、その他の事業でも訪問をしている。民生委員さんには安否確認の訪問を行ってもらっているが、この事業は安否確認だけではなく、身体介護の部分も含んでいる。

事 務 局：介護保険対象外の方には必要な事業なため残していかなければならない。事業の周知と本当に必要な方にサービスが届くよう体制を強化していく。

アドバイザー：ボランティアの担い手不足について、どの自治体も抱えている課題だと思う。ボランティアを周知する機会は多くあると思う。つながりワーカー養成講座やオレンジカフェ・コミュニティコンサートなど、地域の行事に参加する人は地域に関心がある人だと思うので、いろいろな行事の場で宣伝していければいいのかなと思う。

あとは、これまでの取り組みの課題という部分で、第4期の課題を受けて第5期が作られると思うので、課題をまとめて明記しておくのがいいと思う。前の計画策定時には子どもの分野が地域福祉に大きく関わってくることはなかったかもしれないが、次回策定時には入ってくる分野であると思う。そういった部分をまとめておくといいのかなと思う。

事 務 局：ボランティアの活動はますます地域福祉にかかせない存在になってくる。社協と連携しながら、何かの集まりの折には意識して「いかがですか。」と提案していける体制づくりをしていく。

次期計画については、現状の結果で足りなかった部分を次期計画で盛り立てていくというところは重要である。皆様の意見をお聞きしながら、反映させていく。

委　員：男のレコード鑑賞会という名称について、今の社会において男女という表現がいかがなものかと感じる。表現は気を付けないと活字になると残るので、こういう地域福祉という組織においては十分に気を付けていった方がよい。

事 務 局：男のレコード鑑賞会について、高齢者向けの事業の男性参加率が低いことを受けて、男性が参加しやすいように名付けた。 実際男性だけの参加になっている。今の時代には合わないと感じているが、こういういきさつがあることをご承知おきいただきたい。“男の”とつけなくても高齢男性の参加率を上げられるようなアイディアがあればぜひいただきたい。

健康づくり係でも男の料理教室というものがあるが、今年から大人の料理教室に名称を変更した。そういう配慮が必要だと思うので、関係機関で協議して検討していく。

委　員：子どもの福祉教育について、積極的に参加するクラスはあるが、学校全体での教育にはつながっていかない現状がある。今、新年度の教育計画を立てている段階なので、村としても学校全体で子どもたちが関われるような福祉教育というのを考えていく必要があると思う。福祉教育は今重要なことなので、受け身な体制ではなく、積極的に投げかけていってほしい。

今、教育現場でもインクルージブ教育といわれているが、昔は特別支援学級に入っていた子たちが通常級にいることで孤立しやすく、結局社会に出たときも孤立して引きこもってしまうという現状が上がってきている。なので小さい時から、一緒に生活をする中で子どもたちが障がいというものを理解して、成人になっても障がいを受け入れられる地域づくりが大切。これが本当の福祉教育と言われているので、取り組みを位置づけて進めていってほしいと思っている。

事 務 局： 学校で福祉教育が大切なことであると認識しているが、教育の関係は子ども課や教育委員会との調整や、村の方針を定める必要も出てくるので、すぐの対応が厳しいと思うが実現できるようアクションを起こしていく。

委　員：村内には多くの施設がある。はらっぱは子どもがいない時間もあるので、新しいものを作るのではなく既存の施設を有効活用してボランティアセンターなどを検討していってほしい。

事 務 局：既存の建物を使用することにより、よりよくなると十分承知しているが、議会の承認を得る必要があることや、行政の施設の規則により、施設の目的外利用について承認が必要であり、それらの手続きをしなければならない。そういう規則の中で、どのような活用の仕方ができるか検討・研究していく。

委　　員：福祉輸送の利用者が減っているのはなぜか。

事 務 局：減っている理由はしっかりと把握できていないが、ご家族が送迎したり、のらざあなどの公共交通機関を利用する方が増えたのかなと思う。福祉輸送は介護認定を受けた方が通院や銀行・買い物などに使うもので、ケアマネジャーや包括支援センターから紹介を受けて使い始めるという流れだが、紹介される全体数は減ってきている。村内ではほかに福祉輸送をやっているところはなく、事業としては必要であるので、車両や人員など確保し継続していきたいと考えている。

委　員：動ける人にはのらざあが生きてきているのかなと感じる。ねこの足との連携をお願いしたい。ねこの足のボランティアも高齢化してきている。受ける側も提供側も大変な状況になってきている。

ボランティアポイント制は、やはり将来的に管理が難しいので、すぐ還元できるような形にもっていかないと難しいのかなと感じた。

教育関係のことで、はらっぱの今の利用の在り方について教育委員会などで今一度検討をお願いしたいと思う。

委　員： 新規または特記すべき事項のところが充実してきて、良くなっている。事業進歩で来年度への課題が見えてきているはずなので、そこが記入してあると、こちらとしてもわかりやすいので、“継続”だけではなく、良かった点や次年度の目標など、こちらを大切にしてもらいたい。

また、事業の多くを社協が担っていると思うが、どの事業が社協でどの事業が保健福祉課なのかがサービスを受ける側にとってわかりづらいと感じる。この点を明確にしてもらえればと思う。この資料１にも社協の事業なのか、保健福祉課の事業なのか明記してあるとわかりやすい。

事 務 局：窓口がどこかわかりづらく、あきらめてしまう方もいると思う。相談先の周知方法を改善し、周知できるようにしていく。資料に関しても、次年度にはどこの事業なのかわかりやすく記載できるよう努める。

５　その他

事 務 局：来年度、新規計画策定に向けてまた引き続き関係皆様にご協力いただきたいと思います。今回ご指摘いただいた点も含め、計画に反映させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

アドバイザー： 活発な意見が交わされて、自身の地域に対する熱い思いと志を感じた。私自身勉強になる会であった。本日はありがとうございました。

７　閉　　会

委　員：社会情勢が変わってきている。高齢になっても働く時代になってきていて、老人クラブも有志になってきていたり、ボランティアも高齢化してきている。７０代・８０代で働いている方は社会参加ができている。ボランティアが少ないという話になっているが、高齢者というよりも、中高生をボランティアの主体に目線を変えていく方がいいのかなと感じる。中高生のパワーはすごい。本日はありがとうございました。